

2017年10月1日(日)朝10:10 主の聖霊降臨節第18、オリーブ会等
10月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**7つのラツパ;第7の金の鉢:**
大バビロン大淫婦の滅亡

聖書:ヨハネの黙示録 18章1～3節

＜口語訳＞

新約聖書403頁

ヨハネの黙示録 18章1～3節

＜新共同訳＞

新約聖書472頁

ヨハネの黙示録 18章1～3節

＜新改訳第3版＞

新約聖書496頁

ヨハネの黙示録18章1～3節

＜塚本訳＞

新約聖書813～814頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝と大讚美、6～13章は、聖徒の戦い、天使と龍(悪魔・サタン)、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、15章は、金の怒りの鉢による神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、腫物、血海、血水、太陽炎焼、獣の座の暗黒による裁き、ハルマゲドンでの龍(悪魔・サタン)と獣等と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、大淫婦と獣の奥義の説明、大淫婦と獣の自滅予告と仔羊の勝利予告です。
- ◇ヨハネ黙示録18章1～3節は、大バビロン・大淫婦の滅亡予告の第一弾です。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第18章1～3節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録18章1～3節；ヨハネは、大バビロン・大淫婦の滅亡の再々予告を聴きます。

◇18:1～3；塚本訳◆**刑罰の布告—第一の天使の宣言**

「1 この(異象の)後私はもう一人(他)の、大なる力を有つ天使が天から下りて来るのを見た。地はその栄光によって輝いた。

2 彼は強い声で叫んで言うた、「倒れた、倒れた、大バビロンが！そして悪鬼の住家、あらゆる穢れた霊の逃げ場、またあらゆる穢れた憎むべき鳥の逃げ場となった。

3 何故なら、万国の民は彼女の淫行の憤怒の葡萄酒を飲み、地の王達は(皆)彼女と淫行をなし、地の商人達は彼女の豪勢な奢侈によって富んだからである。」と、ヨハネは、大バビロン・大淫婦の滅亡の再々宣言を第一の天使から聴きました。

◇1節；ヨハネが、「大バビロン滅亡宣言」の前に、「大なる力を有つ天使が天から下りて

来るのを見」、「地はその栄光によって輝いた」のを見たのです。

⇒神は先ず、「**天使による神の栄光**」を見せ、「**大バビロン・大淫婦滅亡宣言**」は、最終目的ではなく、「**神の栄光**」へ**神の民の心の目**が向くことを願っておられることを示された。

◇**2～3節**；「**倒れた、倒れた、大バビロンが！そして悪鬼の住家、あらゆる穢れた霊の逃げ場、またあらゆる穢れた憎むべき鳥の逃げ場となった。**」との宣言につづき、「**万国の民は彼女の淫行の憤怒の葡萄酒を飲み、地の王達は(皆)彼女と淫行をなし、地の商人達は彼女の豪勢な奢侈によって富んだからである**」と、「**大バビロン・大淫婦の政治、経済、文化と結びついて繁栄**」が、「**崩壊**」して行く姿をヨハネに啓示されたのです。

⇒「**権力者は政治経済文化の繁栄**」を求め、**権力者**が支配する**国民**を満足させ、その**権力**を長く保持しようと考えます。

⇒併し、「**神なき権力**」、「**神なき文化、繁栄**」は、必ず滅びると、**神**は、ヨハネに語り、**神の民**が失望落胆しないように励まされたのです。

◆ ヘブル11章8～16節 ; アブラハムは、天の都を目ざして生きて行きました。

◇ 11:8～16 ; 塚本訳 ◆ 信仰の父アブラハム

「8 信仰によって、アブラハムは財産として戴くべき(カナンの)場所に『出てゆけ』とのお召しを受け、(素直に)言うことを聞いた。そしてどこへ行くともわからず、『出ていった』。

9 信仰によって、彼は約束の地に他国人として『宿った』。彼は同じ約束の(ものの)共同相続人(である子)イサクおよび(孫)ヤコブと一しょに、天幕に住んだのである。

10 (どうしてこんな生活に甘んじたか。)彼は(堅固な)土台を持つ(天の)都を待ちのぞんでいたからである。その建設者また創造者は神である。

11 信仰によって、アブラハムはまた(その妻)サラと共に、子孫をつくる力を受けた、(すでに年齢が)盛りを過ぎていながら。彼は約束された方を誠実であると考えたのである。

- 12 だからまた、(たった)一人から、しかも(老いぼれて)死んだような者から、『天の星のように数多く、また数えきれぬ海岸の砂のように子孫ができたのである。』。
- 13 信仰に従い、これらの人たちは皆、(地上では)約束のものを受けずに死んだのである。彼らはただ遠くからそれを眺めて歓迎し、自分たちは、『この地上では外国人であり、旅の者』であると認めた。
- 14 このように(自分を外国人、旅の者と)言う人々は、(ほかにある)自分の国を追及していることを現わしているからである。
- 15 もしも彼らが出てきた所、(すなわちカルデアのウル)のことを思ったのであったら、(いくらも)引き返す機会があったはずである。
- 16 しかし今や彼らは(地上のものに)まさる天の国を熱望しているのである。だから神も、彼らの神と言われることを恥とされない。彼は彼らのために(天に)都を用意されたのであるから。」と、アブラハムは、神信仰を与えられて、天の都を目ざしました。

- ◇8節；アブラハムは、「財産として戴くべき（カナン）場所に『出てゆけ』とのお召しを受け」、「（素直に）言うことを聞いた。そしてどこへ行くともわからず、『出ていった』と、記録されていて、冒頭の「**信仰によって**」が、全体を貫く「**鍵のことば**」となっています。
- ⇒ヨハネ黙示録では、**神**は先ず、「**天使による神の栄光**」を見せ、「**大バビロン・大淫婦滅亡宣言**」をされましたが、「**神の栄光**」へ**神の民の心の目**が向くことを願っておられることを示されました。
- ⇒**アブラハムの信仰**においても、**神**は彼の目を「**彼が目ざすべきところ**」に向けて下さっているのを見ます。
- ◇9～15節；アブラハムは、**神の導き**の中でも、多くの試みを経験しますが、「**神信仰によって**」、それらの試練を乗り越え、**神なき故郷ウル**や**神なき家族カラン**へ引き返すことをしなかったのです。
- ◇16節；**神**も、「**アブラハムの神信仰に応えて**」、「**天の国を熱望しているアブラハム**」に、「（**天に**）**都を用意されたのである**」とあります。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」で、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通し(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録と理解。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝と大讚美、6～13章は、聖徒の戦い、天使と龍(悪魔・サタン)、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、15章は、金の怒りの鉢による神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、腫物、血海、血水、太陽炎焼、獣の座の暗黒による裁き、ハルマゲドンでの龍(悪魔・サタン)と獣等と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、大淫婦と獣の奥義の説明、大淫婦と獣の自滅予告と仔羊の勝利予告です。
- ◇ヨハネ黙示録18章1～3節は、大バビロン・大淫婦の滅亡予告の第一弾です。

- ⇒ヨハネの黙示録18:1～3は、「**大バビロン・大淫婦**」が、**滅亡**することの再々宣言です。
- ⇒この「**神なき権力の自滅**」の原則は、いつの時代においても、心にとめておき、「**神の愛の律法**」に生きることに全力を注ぐことが、**神の御意**に従って生きる秘訣です。
- ⇒**神信仰によって生きる者**にとって、この裁きの啓示を通して知るべきことは、「**滅びの道**」に乗らないで、「**天の都**」を**目ざす道**を確実に歩もうと再確認、再決心をすることです。
- ⇒「**神信仰**」に生きる戦いとともに、「**天の都**」を目ざすことを政治、経済、文化の流れの中に巻き込まれていると、心が結びつかなくなるのです。
- ⇒日ごとの朝夕の「**みことばと祈りの時**」は、「**滅びの道**」から「**天の都を目ざす道**」へ進むことを促し、勇気づけてくれます。
- ⇒「**神なき権力、政治、経済、文化**」の地上の生活の中に、「**永遠の天の都**」を見出すことはできません。主日ごとの「**神礼拝**」の中に、「**神の国・天の都**」の前味わいを感じつつ、「**天の国を熱望して**」共に生かされたいと願います。